

シンポジウム | 特別講演

教育問題シンポジウム

老年歯科医学の卒前教育の実態はどうなっている？

座長: 福島 正義(福島県昭和村国民健康保険診療所／新潟大学歯学部)

Sat. Jun 23, 2018 9:30 AM - 10:40 AM 第2会場 (1F 小ホール)

【略歴】

1978年 新潟大学歯学部卒業
1982年 新潟大学大学院歯学研究科修了
1982年 新潟大学助手・歯学部附属病院 (第1保存科)
1986年 新潟大学講師・歯学部附属病院 (第1保存科)
2001年 新潟大学助教授・歯学部附属病院 (総合診療部)
2004年 新潟大学教授・医歯学系 (歯学部口腔生命福祉学科)
2018年 福島県昭和村国民健康保険診療所歯科長
日本老年歯科医学会終身認定医・終身指導医・理事
日本歯科保存学会専門医・指導医・理事
日本接着歯学会終身認定医・前会長
日本歯科審美学会認定医・常任理事
日本歯科理工学会DMSA

【抄録】

平成29年版高齢社会白書によると、高齢化率は27.3%に上っている。人類史上かつてない超高齢社会の到来に伴い、歯学教育における老年歯科医学教育の充実は急務である。教育問題検討委員会では、2015年に老年歯科医学教育基準を公表した。しかし、わが国の歯科大学・大学歯学部および歯科衛生士養成校における老年歯科医学教育に関する講義・実習の実施状況や教育基準の内容がどの程度教授されているかは不明であった。そこで、2017年に歯学生および歯科衛生士学生に対する老年歯科医学教育の実態を明らかにするためにWebアンケート調査を実施した。本シンポジウムでは学会誌に公表された今回の調査結果を解説する。さらに、2017年に歯学教育モデル・コア・カリキュラム (平成28年度改訂版) と歯科医師国家試験出題基準 (平成30年版) が相次いで公表されたことにより本学会の教育基準との整合性を確認し、これらの分析を総括して教育機関における教育体制のあり方を考察する。

[S7-3] 歯科衛生士養成校における老年歯科医学教育の実態2017

○日山 邦枝¹ (1. 昭和大学学事部 (図書館))

【略歴】

1977年 鶴見大学女子短期大学部保健科卒業
1977年 昭和大学歯科病院入職
1994年 東京都歯科衛生士会副会長
2003年 昭和大学歯科衛生室歯科衛生士長
2005年 大田区介護認定審査委員
2007年 新潟大学口腔生命福祉学科非常勤講師
2011年 日本歯科衛生士会常務理事
2014年 口腔機能向上プログラム講師
2014年 国立障害者リハビリテーションセンター学院言語聴覚学科非常勤講師
2017年 昭和大学図書館 (学事部) 勤務
2017年 認知症ケア指導管理士取得

2017年8月に一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会の協力の下に、会員校の163校（3年制152校，4年制11校）を対象としたWebアンケートを実施した。調査項目は、歯科大学および歯学部での調査と同様である。

145校（89%）から回答が得られた。老年歯科医学に関する講義，実習，訪問歯科診療に関する実習を実施しているのは，それぞれ142校（98%），134校（92%），63校（43%）であった。講義の平均実施コマ数は3年制校で36コマ，4年制校で35コマ，実習は3年制校で22コマ，4年制校で67コマ，訪問歯科診療は3年制校で25コマ，4年制校で30コマであったが，学校間での偏りが大きかった。担当科目は歯科保健指導80校，高齢・障がい者歯科学73校，口腔介護学42校であった。訪問歯科診療の実習先は老人保健施設が48校，特別養護老人ホーム32校であった。訪問歯科診療などの臨地実習の場が少ないことが課題と考えられた。